

聖隷クリストファー大学

地域連携推進センター 年報

地域連携プロジェクト 報告書

第13号
2021



聖隷クリストファー大学
地域連携推進センター

ごあいさつ

地域連携推進センター長の吉本好延と申します。聖隷クリストファー大学地域連携推進センター年報第13号（2021）の刊行にあたり、ご挨拶させていただきます。本学は、地域の保健医療福祉・教育の発展と地域振興に資する大学として、自治体や他大学と連携して事業を行っています。地域連携推進センターの活動は、2022年度現在で14年目に入っており、当年報では2021年度の実績を報告しております。

2021年度は、1) 地域連携プロジェクトの実施、2) 浜松市と大学との連携事業～大学生による講座、などに取り組みました。

地域連携プロジェクトの実施の目的は、保健医療福祉・教育分野に貢献する事業・研究を推進することであり、本学周辺地域の企業・団体と協同で行う事業・研究を対象に『地域連携プロジェクト費』を配分しています。2021年度は計2件、計478,746円のプロジェクト費を配分しました。また2022年度より、これまでの地域連携プロジェクト費を「地域連携事業費」へと変更しました。

「浜松市と大学との連携事業～大学生による講座」の目的は、市民と大学生が生涯学習を通じて、自己の成長や能力の向上を図る学習活動を推進し、その学びの成果を地域に還元していくことです。浜松市が企画・推進する事業に本学が参画しており、2021年度に年間で14回の講座を実施し、のべ181名の市民の方々に参加いただきました。

そのほか、当センターが窓口となり、地域での各種研修会への講師等の派遣、保健医療福祉・教育の専門分野の委員等の派遣を行っており、地域との連携・協働による課題解決を図り、地域の保健医療福祉・教育の更なる質の向上のため積極的に活動しています。派遣の実績につきましては、ホームページでも公開しておりますので、ご依頼の際は当センターのホームページよりお申し込みいただき、ご不明な点等ございましたら、地域連携推進センター事務局までお問い合わせください。

当センターの事業を通じて、行政や企業、他大学と連携を図り、地域の保健医療福祉・教育の発展と地域振興に貢献してまいります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

2022年12月

聖隷クリストファー大学
地域連携推進センター
センター長 吉本 好延

目 次

I. 2021 年度事業報告

1. 地域連携プロジェクト 課題一覧	1
2. 浜松市との連携	4
3. 研修会講師等派遣	6
4. 保健医療福祉団体の委員等派遣	11

II. 2021 年度地域連携プロジェクト 報告書	14
---------------------------	----

地域連携推進センター運営会議 委員一覧

1. 地域連携プロジェクト 課題一覧

当センターでは、保健・医療・福祉・教育の実践現場との連携のもとに行う本学周辺地域の課題解決に向けた事業を対象として「地域連携プロジェクト費」を分配しています。2021年度は計2件、計478,746円の申請があり、地域連携推進センターによる審査の結果、2件の課題を採択し、計478,746円のプロジェクト費を配分しました。プロジェクト課題2件の報告書を当年報(P.16～)に掲載しておりますので、併せてご覧ください。

所属	代表者	職位	課題	連携機関	配分額 (円)
社会福祉学研究科	川向 雅弘	教授	浜松市におけるスクールソーシャルワーカーの基盤強化研修及び講師(教員)の質向上(第2年目)	浜松市スクールソーシャルワーカー、浜松市教育委員会	83,546
リハビリテーション学部	新宮 尚人	教授	リハビリテーション学部における産学連携推進の連携モデルの構築	株式会社 杏林堂薬局	395,200
合計					478,746

<合同研究発表会>

2020年度に地域連携プロジェクト費の配分を受け実施されたプロジェクトの報告会を下記日程で開催しました。

日時：2021年6月9日、10日

場所：聖隷クリストファー大学1号館1階 大会議室

発表：フラッシュトーク(口頭発表) および質疑応答



2021年度「地域連携プロジェクト費」募集要項

地域連携推進センター「地域連携プロジェクト費」について、下記の要領で事業計画を募集します。

1. 基本方針

地域連携推進センターの柱のひとつである「保健医療福祉分野に係る全ての人たちとの共同事業・研究」を推進するために、保健・医療・福祉・教育の実践現場との連携のもとに行う地域の課題解決に向けた事業を募集します。

2. 対象となる事業およびプロジェクト費の金額

浜松市との包括連携等、保健・医療・福祉・教育の実践現場との連携のもとに行う地域の課題解決に向けた事業を対象とします。組織としての連携事業とするため、代表者は学部長、学科長、領域長、コース責任者等とし、学部・学科・領域・コース等の単位で取り組む連携事業とします。

・プロジェクト費の配分総額は130万円、1件当たり最大40万円です。

3. 事業対象期間

2021年4月1日～2022年3月31日

4. スケジュール

募集告知	1月中旬
計画の受付	2月10日(水)～3月8日(月)17時まで
地域連携推進センター運営会議<定例> (申請状況の報告／審査要領の確認／要領等を大きく逸脱した申請課題があった場合の対応の検討)	3月24日(水)
審査期間	3月31日(水)～4月9日(金)
地域連携推進センター運営会議開催<定例> (配分案の検討)	4月21日(水)
部長会で配分案決定	5月11日(火)
配分結果通知、執行可能※	5月12日(水)
執行役員会に配分結果を報告	5月14日(金)

※人間を直接対象とする調査・研究の要素が含まれる場合は全て倫理審査の「承認」が必要となります。この場合、倫理審査の承認後から執行可能となります。

5. 申請期限

3月8日(月)17時

・計画書は、必ず地域連携推進センターメールアドレス「health-science@seirei.ac.jp」へ申請期限までにメールでご提出ください。申請期限以降は、提出データの修正・差し替えはできません。

・受付け漏れを防ぐため、メール受信の翌日中(土・日曜、祝祭日を挟む場合はその翌日)に受付け完了のメールを返信します。返信がない場合には総務部担当者(田内、辻村)へご連絡ください。

6. 新型コロナウイルス感染症の影響による特例措置

2020年度の地域連携プロジェクト費に採択されたプロジェクトテーマの内、新型コロナウイルス感染症の影響によりやむを得ずプロジェクトの一部または全部を遂行ができなかったものについては、2021年度に限り同一のプロジェクトテーマで再度申請できることとします。ただし、コロナ禍の状況においても遂行可能な実施方法等としてください。また、2020年度に使用した経費を同一の事由により重複して申請することはできません。

7. 申請における注意事項

- ・配分されたプロジェクト費の執行は、部長会で配分案が決定し、配分結果を通知した後からとなります。なお、人間を直接対象とする調査・研究の要素が含まれる場合は、全て倫理審査の「承認」が必要となるため、配分結果の通知後で且つ倫理審査の承認を得た後から執行可能となります。通知前(倫理審査が必要な場合は、倫理審査の「承認」前)の執行は認められませんのでご注意ください。
- ・計画書の経費内訳欄には、できるだけ具体的な積算根拠を記載してください。算出根拠の未記入等、記載内容に不備があった場合は、該当経費は配分対象にならないことがあります。
- ・限られた予算を有効に配分するため、既に研究室に備えられているパソコン、プリンター、総務部で貸出をしているデジカメ、ビデオカメラ、ICレコーダー等の申請はできるだけご遠慮ください。特別な事情により申請をする場合は、計画書に申請理由を添付してください。
- ・プロジェクト費の配分は1年単位です。プロジェクトを複数年度にわたり遂行する予定でも、年度ごとの申請が必要です。
- ・計画書の一部を地域連携推進センター HP にて公表します。

8. 審査の方法

地域連携推進センターは、配分案を検討するにあたり、申請された計画書に対して以下の項目を目安にして審査をします(15点満点。絶対評価)。

項目
(1) 設定した課題の妥当性と課題解決に向けた目標設定の妥当性 <5点満点>
(2) 計画：方法・体制の妥当性 <5点満点>
(3) 申請経費の妥当性 <5点満点>

9. 成果の提出

- ・代表者等は、プロジェクトの成果を取りまとめ、次の2種について2022年4月末日までに地域連携推進センターに提出してください。
 - ① 事業成果報告書(A4版サイズ、3～4枚程度/地域連携推進センター年報等に掲載)
 - ② 一般向けの抄録(A4版サイズ、1枚/地域連携推進センターHP等に掲載)
- ・代表者等は、学内合同研究発表会(5月予定)および地域連携推進センターが企画する報告会(11月予定)で発表する義務を負います。

※関連書類

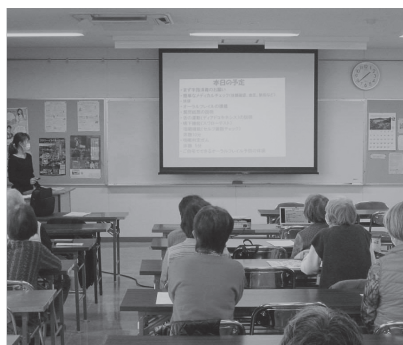
- ・2021年度 地域連携プロジェクト費 計画書

2. 浜松市との連携

浜松市と大学との連携事業～大学生による講座 2021年度実施報告

本学は、浜松市が企画・推進する事業「浜松市と大学との連携事業～大学生による講座」に参画しています。この事業は、市民と大学生が生涯学習を通じて自分の成長や能力の向上を図る学習活動（生涯学習）を推進し、その学びの成果を地域づくりにつなげていくことを目的に行われています。本学では2021年度に年間で14回の講座を実施し、のべ181人の市民の方々に参加いただきました。2022年度も継続して本事業に参加します。

講座名	対象	担当学科等	開催日	会場	参加者数
おにいちゃん、おねえちゃんになるための「赤ちゃんのお世話講座」	赤ちゃんのお世話について学びたい家族	看護学科	2021年7月29日	入野協働センター	8
お母さんのお腹の中をそっとのぞいてみよう	幼児4～5歳児とその保護者	助産学専攻科	2021年10月18日	伊平幼稚園	15
自分の体の動きと使い方を 知ろう！ ～走力・体力アップのヒント～	小学 1～6年生	理学療法学科	2021年11月10日	佐久間小学校	12
	小学 4～6年生		2021年12月18日	庄内協働センター	10
みんなで心も体も元気になろう！ ～健康寿命を延ばす 予防と対策～	高齢者	理学療法学科	2021年11月10日	水窪文化会館	14
			2021年11月24日	竜川ふれあいセンター	9
オーラルフレイルを 予防しよう！	中高年	介護福祉学科	2021年11月10日	熊ふれあいセンター	8
			2021年12月8日	積志協働センター	10
			2022年1月12日	可美協働センター	9
			2022年1月17日	籠玉協働センター	中止
認知症予防 “海馬を鍛えよう！！”	どなたでも	作業療法学科	2021年11月24日	上阿多古ふれあいセンター	15
			2022年2月7日	天竜協働センター	24
みんなで筋肉学 ～筋肉を学んで肩こり・ 腰痛に負けない体をつくる～	成人・ 前期高齢者	理学療法学科	2021年11月25日	高台協働センター	18
			2021年12月9日	西部協働センター	20
Care for Mommy！ ～家族の幸せは私の健康から～	乳幼児を 持つ母親	看護学科 助産学専攻科	2021年12月18日	浜名協働センター	9



浜松市ウエルネス認証事業 2021年度実施報告

事業名：目指そう健康寿命延伸！ ～元気な身体でパタカラライブ～

実施者：柴本 勇（リハビリテーション学部言語聴覚学科 教授）

連携企業、団体：認定栄養ケア・ステーションちょぼ

実施期間：令和3年7月24日（土）～令和4年3月31日（木）

実施内容：

- ①オリジナル曲を4曲制作
- ②オリジナル曲をCDプレスし、市民や施設が活用できるようにした
- ③歌詞カードの制作
- ④パンフレットの制作。パンフレットは、自身や施設で継続的に活動できるように、活動の意義の説明、具体的なCD活用方法、具体的体操、解説をわかりやすく掲載
- ⑤浜松市内の福祉施設等の職員に具体的方法等の説明をした。活用できそうな個人・団体・施設に無償配布し活動を継続して頂く

事業の効果、成果：

コロナ禍の中、フレイルや抑うつ状態の高齢者が増加していると報告されている。そのような高齢者を対象に、①口腔機能向上、②呼吸機能向上、③身体機能向上、④心の活力向上 を目的とした、高齢者が歌うことができる曲を4曲制作した。楽曲は、①構音のバランスや難易度の高い構音の配置等、口腔機能が自然に高まる配慮、②音の高さ・強さ・持続等を科学的に検討し、喉頭や呼吸機能を高められる工夫、③頭頸部・胸郭・肩の関節可動域・ストレッチ・筋力向上ができる踊りを創作、④呼気による緊張緩和・大きな声を出すメロディー・気分が高まる明るい歌詞や曲調を採用 など、歌を歌って踊るだけでフレイル予防できる楽曲を4曲制作できたことが成果である。これまで、今回の事業で制作したような楽曲はわが国において発表されることがなく、4曲は我が国初のフレイル予防のオリジナル曲である。加えて、4曲は一般の方でも楽しめるように工夫をしたことで、ユニバーサルソングとして位置付けられる、このような高齢社会にあるわが国で、娯楽だけでなく世代を超えた目的の新しい楽曲を創出できたことも本事業の成果である。今後、市内施設や高齢者が活用できるのみではなく、浜松市のイベントに利用できるのも大きな成果である。

浜松市内の高齢者施設等の職員様に、本事業の成果物である曲と踊りを説明すると同時にパンフレット内容を説明した。全員大変興味を示され、使っていただけるとのことだった。すべての職員様からは、現在コロナ禍の中抑うつ対策に対する楽しみの創出が大きな課題であり、楽しくワクワクする曲調でかつマスクをしたままできる運動など高齢者にとっては意義深いものであるとの意見が寄せられた。曲を聴くだけで皆に笑顔が戻り、口腔運動を積極的に行うなどの効果がみられている。同時に、高齢者施設では職員様がコロナ禍の対策によって疲弊しているという現状があり、副次的ではあるが職員様の働くモチベーション向上に対する効果も聞かれた。

制作したオリジナル曲「ばたから音頭」を使用して体操を行っている動画は以下よりご覧いただけます。

ばたから音頭 ～口控運動編～



ばたから音頭 ～ストロー編～



ばたから音頭 ～体操編～



※本事業は令和3年度浜松市ウエルネス認証事業費補助金の採択を受け実施いたしました。浜松市ウエルネス認証事業は、浜松市が「予防・健幸都市」の実現に向け、市民の多様な健康ニーズへの対応や健康無関心層の行動変容を促進するため、市内の企業及び団体が連携して実施する予防・健康事業です。

3. 研修会講師等派遣

当センターが窓口となり、静岡県内で実施した講師等派遣の一覧です。

No	主催	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2021年度当時)
1	公益社団法人 静岡県看護協会	令和3年静岡県専任教員養成講習会 テーマ：看護教育方法論（シミュレーション教育） 対 象：受講後に県内で看護基礎教育に従事する看護師等	看護学部 教授 梶原理恵
2	聖隷三方原病院	2021年度聖隷三方原病院看護管理者教育課程 ファーストレベル 科目名：人材管理I 単 元：看護チームのマネジメント リーダーシップとメンバーシップ 対 象：看護職者	看護学部 教授 梶原理恵
3	浜松協働学舎親の会	2021年度浜松協働学舎親の会 福祉講演会 テーマ：感染症について 対 象：浜松市協働学舎親の会会員	看護学部 教授 市江和子
4	公益社団法人 静岡県看護協会	令和3年度 看護職員実習指導者等講習会（特定分野） テーマ：実習指導の実際I - 在宅看護論 対 象：静岡県内の看護実習指導従事者	看護学部 教授 酒井昌子
5	社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会	静岡市社会福祉協議会リスクマネジメント研修 テーマ：リスクマネジメントの考え方、リスクヘッジの 必要性など 対 象：静岡市社会福祉協議会の苦情解決統括責任者、各部門責任者（部長）、苦情解決責任者、苦情受付担当者	看護学部 准教授 炭谷正太郎
6	医療法人社団八洲会 袋井みつかわ病院	研究抄録指導 対 象：担当部署の病棟看護師、介護士その他職種	看護学部 准教授 藤浪千種
7	医療法人社団八洲会 袋井みつかわ病院	研究計画書作成指導 テーマ：研究計画書の作成指導（専門的見地からの アドバイス） 対 象：病棟看護師、介護士その他職種	看護学部 准教授 藤浪千種
8	静岡県西部 健康福祉センター	令和3年度新任期地域保健従事者現任研修会 テーマ：地区組織の育成と支援 ～面白い文化を組織に活かす～ 対 象：地域保健活動に従事して1～3年目の管内 市町及び西部健康福祉センターの保健師・ 栄養士	看護学部 准教授 若杉早苗

No	主催	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2021年度当時)
9	浜松市西・南障がい者相談支援センター	浜松市障がい者自立支援協議会 西南エリア連絡会 地区部会における研修会 テーマ：「我が事」地域共生社会の実現と地区社協の意義 ～地域との協働で進める障がい者支援に向けて～ 対 象：地区部会構成員・西南センター相談員	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 佐藤順子
10	社会福祉法人 島田市社会福祉協議会	役員・評議員研修 テーマ：①講義（地域福祉や社会福祉協議会に関する内容） ②グループワーク 対 象：島田市社会福祉協議会の役員・評議員・職員	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 佐藤順子
11	社会福祉法人小羊学園	令和3年度 三方原スクエア職員研修会 テーマ：知的障害を持つ利用者支援を行ううえでの必要となる職員同士のコミュニケーション、 接遇、ストレスへの対応等について 対 象：三方原スクエア児童部、成人部、グループホーム、通所等を含む直接支援の職員	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 川向雅弘
12	浜松市民生委員 児童委員協議会	令和3年度 浜松市民生委員児童委員協議会リーダー研修会 テーマ：事例検討の進め方	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 川向雅弘
13	光明学園	職員研修会 テーマ：知的障がい者の支援について 対 象：光明学園施設職員	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 川向雅弘
14	社会福祉法人 聖隷福祉事業団	多職種協働推進シンポジウム テーマ：地域で暮らす精神障害のある方を「チームで支える」支援のために ～顔がみえ、役割のわかる関係作りをしよう～ 対 象：医療・介護・福祉の支援者	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 川向雅弘
15	豊川市地域医療 連携協議会	令和3年度 第4回医療・介護合同研修会 テーマ：ライフステージを通じた不登校・ひきこもり・ 発達障害・精神障害等の理解と心理、社会的支援 ～地域連携・顔が見える関係から顔が浮かぶ関係へ～ 対 象：豊川市内の医療・介護に携わる医師及び職員、行政機関職員等	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 大場義貴
16	浜松市	第29回浜松市民アカデミー テーマ：「明日へつながる9つの発見」 ～今こそ学び、考える～ 対 象：浜松市民	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 大場義貴

No	主催	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2021年度当時)
17	北区役所長寿保険課 地域包括支援センター 三方原	令和3年度 第2回北区事業者情報交換会 テーマ：8050問題 ひきこもりの理解と支援 対 象：北区管内のケアマネージャー等	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 大場義貴
18	社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会	令和3年度外国人介護職員研修交流会 テーマ：高齢者介護の基礎&介護の仕事への思いの共有 対 象：静岡県内の福祉施設等に令和4年4月からの採用が内定している方	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 野田由佳里
19	社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会	令和4年静岡県福祉職合同入職式 対 象：静岡県内の介護施設に勤務する外国人介護職員、介護職を目指す養成校や日本語学校の留学生	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 野田由佳里
20	浜松市健康福祉部 高齢者福祉課	浜松市地域包括ケアシステム推進連絡会 研修・情報共有部会 研修会 テーマ：精神障がい者に対する効果的な支援を行うための多職種連携について 対 象：医療・介護・福祉等の分野の専門職、病院、施設等の相談員、行政職員等	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 佐々木正和
21	一般社団法人 静岡県介護福祉士会	認定介護福祉士養成研修 テーマ：マネジメントに関する領域 1) 介護業務の標準化と質の管理 2) 法令の理解と組織運営 対 象：静岡県内の介護福祉士	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 落合克能
22	社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会 静岡県社会福祉人材センター	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者コース(中部)2日目 テーマ：①福祉職員として成長するために ②組織のなかでの多職種連携・協働 等 対 象：社会福祉施設(事業所)・介護保険事業所等への従事経験が1～2年程度の初任者	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 落合克能
23	ふくろいファミリー・サポート・センター	令和3年度託児・高齢者サポーター養成講座 テーマ：保育の心 託児の心構え	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 泉谷朋子
24	社会福祉法人 七恵会	認知症ケア向上委員会 テーマ：「認知症利用者を知る」 ～アセスメント力を身に付け、尊厳を守る適切なケアを～ 対 象：第二長上苑・第三長上苑の認知症ケア向上委員会メンバー	社会福祉学部 社会福祉学科 助教 秋山恵美子

No	主催	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2021年度当時)
25	一般社団法人 静岡県私立幼稚園 振興協会	令和3年度 第2回初任者研修 テーマ：育ち合うとは 対象：静岡県内私立幼稚園・認定こども園の初任者教員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 太田雅子
26	聖隷保育学会	聖隷保育学会研修会 テーマ：研究指導 対象：聖隷福祉事業団のこども園・保育園	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 太田雅子
27	一般社団法人 静岡県私立幼稚園 振興協会	令和3年度 乳幼児教育研修会 テーマ：3歳未満児の豊かな育ちを保障する保育とは 対象：静岡県内私立幼稚園・認定こども園に勤務している教員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 太田雅子
28	浜松民間保育園長会	保育士等キャリアアップ研修 テーマ：3. 幼児の発達に応じた保育内容 4. 幼児教育の指導計画、記録及び評価 対象：浜松市内の民間保育園・認定こども園 職員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 太田雅子
29	磐田市 PTA 連絡 協議会	2021年度磐田市 PTA 連絡協議会講演会 テーマ：これからの PTA 活動のあり方について 対象：市内小中学校 PTA 会長	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 鈴木光男
30	磐田市 PTA 連絡 協議会	磐田市 PTA 連絡協議会成人教育委員会研修会 テーマ：ポストコロナ時代の学校教育と PTA ～子供が真ん中のコミュニティ再構築～ 対象：磐田市 PTA 連絡協議会成人教育委員及び役員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 鈴木光男
31	磐田市立磐田中部 小学校	2021年度磐田市立磐田中部小学校 夏季校内研修会 テーマ：ポストコロナ時代の小学校教育 対象：磐田市立磐田中部小学校教員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 鈴木光男
32	浜松海の星幼稚園	地区研修会 テーマ：絵画研修（実技を含む） 対象：浜松市私立幼稚園西部地区職員及び浜松海の星幼稚園職員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 鈴木光男
33	磐田市立磐田第一 中学校	2年生「総合的な学習時間」キャリア教育 テーマ：世界を見ると何かが変わる 対象：磐田市立磐田第一中学校2年生	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 鈴木光男
34	浜松民間保育園長会	保育士等キャリアアップ研修 テーマ：小学校との接続 対象：浜松市内の民間保育園・認定こども園 職員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 飯田真也

No	主催	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2021年度当時)
35	NPO 法人 愛知県理学療法学会	令和3年度理学療法士講習会・基本編(理論) テーマ:脳卒中者の予後予測 対象:日本理学療法士協会会員・新人教育プログラム修了者等	リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 吉本好延
36	浜松市社会福祉協議会 北地区センター	いきいき講座 テーマ:自身の健康増進や地域のサロン活動に役立つストレッチ 対象:北区在住の概ね60歳以上の方	リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授 根地嶋誠
37	浜松市ふれあい交流 センター萩原	元気はつらつ教室 運動指導講師 テーマ:高齢者の運動機能低下及び認知症予防 対象:地域の高齢者	リハビリテーション学部 理学療法学科 助教 高山真希
38	静岡県立 浜松特別支援学校	多様な人材活用支援事業 テーマ:学校職員への指導助言 対象:静岡県立浜松特別支援学校職員	リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 伊藤信寿
39	静岡県立 清水特別支援学校	職員研修 テーマ:対象児童の様子を診ての指導助言 対象:静岡県立清水特別支援学校職員	リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 伊藤信寿
40	静岡県立 藤枝特別支援学校	自立活動相談 テーマ:子どもの学修や生活動作についての支援の仕方や考え方に関する個別相談及び学習会 対象:静岡県立藤枝特別支援学校教職員	リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 伊藤信寿
41	聖隷クリストファー 高等学校	英数科「人間探求」講演 テーマ:リハビリテーションの仕事と医療海外協力 対象:聖隷クリストファー高校 英数科1年生	リハビリテーション学部 作業療法学科 准教授 富澤涼子
42	浜松市教育委員会	家庭教育講座 テーマ:子どもの「こころ」と向き合う子育て ～ちょっと気になる行動へのワンポイントアドバイス!～ 周りの子と少し違うのかも?と気になっていること、ありませんか? 対象:浜松市立中郡小学校1年生の保護者	リハビリテーション学部 作業療法学科 助教 飯田妙子

4. 保健医療福祉団体の委員等派遣

No	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2021年当時)
1	静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程 教員会委員 任期：2021年4月1日～2022年3月31日 主催：静岡県立静岡がんセンター	看護学部 教授 鶴田恵子
2	認定看護管理者教育運営委員会 委員 任期：2021年4月1日～2022年3月31日 主催：社会福祉法人聖隷福祉事業団	看護学部 教授 鶴田恵子
3	新卒訪問看護師育成委員会会議 委員 任期：2021年8月10日 主催：一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会	看護学部 教授 酒井昌子
4	救急法短期講習 指導員 任期：2021年5月25日 主催：日赤浜松市地区本部東区地区長	看護学部 准教授 岡田眞江
5	第2回 地区社会福祉協議会の支援強化に向けた検討会（地区社協あり方検討会） 任期：2021年4月1日～2023年3月31日 主催：社会福祉法人浜松市社会福祉協議会	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 佐藤順子
6	令和3年度第2回浜松市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 委員 任期：2021年4月16日～2024年4月15日 主催：浜松市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 佐藤順子
7	令和3年度浜松市生活支援体制づくり第1層協議体会議（第3回） 委員 任期：2021年4月1日～2024年3月31日 主催：浜松市生活支援体制づくり第1層協議体	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 佐藤順子
8	三方原圏域生活支援体制づくり協議体会議 委員 主催：三方原圏域生活支援体制づくり協議体	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 佐藤順子
9	地域向け研修 コメンテーター 任期：2022年3月7日 主催：浜松市自立支援協議会東エリア連絡会	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 佐藤順子
10	令和3年度浜松市就学支援委員会委員および浜松市医療的ケア運営協議会委員 任期：2021年8月25日～2022年2月10日 主催：浜松市教育委員会学校教育部	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 大場義貴
11	浜松市不登校対策推進協議会 委員 任期：2021年4月1日～2022年3月31日 主催：浜松市教育委員会指導課	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 大場義貴
12	浜松市 SNS を活用した若者相談支援業務事業者選定に係る評価委員 任期：2021年6月11日 主催：浜松市青少年育成センター	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 大場義貴
13	令和3年度 浜松市ひきこもり地域支援センター企画検討委員会 委員 任期：2021年4月1日～2022年3月31日 主催：浜松市ひきこもり地域支援センター	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 大場義貴

No	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2021年当時)
14	令和3年度 浜松地域若年者就労支援推進協議会 委員 任期：2021年4月1日～2022年3月31日 主催：NPO 法人遠州精神保健福祉をすすめる市民の会 (E-JAN) 地域若者サポートステーションはままつ	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 大場義貴
15	ひきこもり支援強化に係る市町へのアドバイザー 任期：2021年10月～2022年1月 主催：社会福祉法人静岡県社会福祉協議会	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 大場義貴
16	実行委員会 委員 任期：2021年11月～2022年9月 主催：ダイケア学会静岡大会	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 大場義貴
17	令和3年度 浜松市若者支援地域協議会代表者会議 アドバイザー 任期：2021年4月1日～2022年3月31日 主催：浜松市こども家庭部次世代育成課	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 大場義貴
18	要介護度改善評価事業 評価委員 任期：2022年2月25日 主催：浜松市健康福祉部介護保険課	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 横尾恵美子
19	高齢者虐待防止支援事業 アドバイザー 任期：2021年4月1日～2022年3月31日 主催：浜松市	社会福祉学部 社会福祉学科 教授 野田由佳里
20	法人内研究発表会 審査委員 任期：2022年2月26日 主催：社会福祉法人小羊学園	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 泉谷朋子
21	評議員 任期：2021年6月から4年間 主催：社会福祉法人三宝会	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 落合克能
22	監事監査の執行、社員総会への出席 任期：2021年6月27日～2023年6月26日 主催：NPO 法人遠州精神保健福祉をすすめる市民の会 (E-jan)	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 落合克能
23	社会福祉法人和光会 理事 任期：2021年6月24日～2023年度の定時評議員会終結まで 主催：社会福祉法人和光会	社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 落合克能
24	令和3年度磐田市立磐田中部小学校・磐田第一中学校 学校運営協議会 委員 任期：2021年4月1日～2022年3月31日 主催：磐田市教育委員会	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 鈴木光男
25	令和3年度磐田市立磐田中部小学校・磐田第一中学校 地域学校協働活動 推進員 任期：2021年4月1日～2022年3月31日 主催：磐田市教育委員会	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 鈴木光男
26	磐田市芸術祭第10回ジュニアアート展 審査員 任期：2021年10月14日 主催：磐田市文化協会	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 鈴木光男

No	内容	担当 (担当教員の所属・職位は 2021 年当時)
27	浜松市社会福祉審議会児童福祉専門分科会児童処遇部会 委員 任期：2021年4月16日～2024年4月15日 主催：浜松市こども家庭部	社会福祉学部 こども教育福祉学科 教授 藤田美枝子

2021 年度
地域連携プロジェクト 報告書

浜松市におけるスクールソーシャルワーカーの基盤強化研修及び講師（教員）の質向上（第2年目）

代表者：川向雅弘（社会福祉学研究科長）

分担者：大場義貴、福田俊子、佐々木正和（社会福祉学研究科）

連携機関：平川悦子（浜松市教育委員会指導課スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー）、
長坂聖子（浜松市教育委員会指導課スクールソーシャルワーカー）

【背景・目的・対象・概要】

2008年に文部科学省のスクールソーシャルワーカー（以下SSW）活用事業が開始された。一方で、急激な増員により様々な職歴、専門性の人材が任用されており、受け入れる学校側の戸惑い大きいことが懸念されている。

当事業分担者の大場と研究協力者の平川、長坂らは、2019年度本学地域連携事業研究費にて「静岡県内スクールソーシャルワーカーに対する専門的研修が支援活動に与える効果の検証」を行い、以下の4点の結論を得た。①SSW研修の効果は、性別、年齢、エリア、参加回数に関係なく認められた。②SSWの資質向上のためには、児童虐待・貧困対策等の研修と共に、スーパーバイズ体制の強化が求められる。また、エリアの特徴を活かすことやエリア間格差を解消していくことが求められる。③困難事例への支援を複数機関で連携していくためには「現状把握」、「必要な合意形成」、「連携の仕組みづくり」、「評価・改善」、「効果検証」という一連のPDCAサイクルに則った取り組みが必要である。④これらの取り組みを推進できるコーディネーターの養成や育成が必要である。

これらの結論から、SSW資質向上研修は必要と考え、2020年度地域連携プロジェクト費に「浜松市におけるSSWの基盤強化研修及び講師（教員）の質向上」を申請（代表者：川向雅弘）し、採択となった。

2020年度の研修成果について、参加者のリアクションペーパーから得られたキーワードにより、各回に横断的な多くの共通点が見出された（アセスメント・身近な社会資源・地域・見守り・フォーマル・インフォーマル・政策・医療・虐待・家庭の現場・葛藤・経験・気づき・巻き込まれ続ける・スーパーバイザー・スーパーバイジー・尊厳・成長・信じる・SSWの資質向上・自己研鑽・総合力・多機関連携・協働・支援の空白・学校側の理解促進・アウトリーチ・高校との連携・ヤングケアラー）。

これらが意味するものは、SSWの基本的対応能力であり、更なる深化が求められることが示唆されたため、引き続き社会福祉学研究科として『浜松市におけるスクールソーシャルワーカーの基盤強化研修及び講師（教員）の質向上（第2年目）』を2021年度地域連携プロジェクト費に申請し、採択となった。

【目的と対象・実施方法・研修内容・研修内容の評価方法】

①目的と対象

浜松市教育委員会から任用されているSSW16名を対象に本学教員が専門的研修を行い、基盤強化を目指した。研修は昨年度から引き続き2年目である。

②実施方法

当研修は、リカレント教育、人材育成、大学院としての地域貢献（知名度向上）等から、社会福祉学研究科（社会福祉学原理領域）が中心になって実施した。また、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から研修は全てビデオ会議システムZoomで実施した。

③研修内容

研修の内容は、2020年度の研修を継続、発展させた内容とした。なお、講師（本学教員）の質向上も兼ねて、第5回では、SSWの実践及び研究の先進地である、福岡県立大学の奥村賢一先生の講義を、SSWと本学教員が受講した（各回2～3時間）。

④研修内容の評価方法

研修会の目的は研究ではないため、各回や最終回に、アンケート等を行わなかったが、研修回毎に無記名式、任意のウェブ回答方式の「リアクションペーパー」として、学校組織へのアプローチ（15項目）、教育委員会へのアプローチ（4項目）、関係機関へのアプローチ（8項目）、子ども・保護者のアプローチ（3項目）を定型の設問（項目は山野 2014 を引用）とし、研修受講後、これらに対して、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」から択一回答と、感想を自由に記述して頂いた。

【結果】

①定型の設問に対する各回終了後の回答の平均値と割合

各設問の回答が「そう思う」または「ややそう思う」である場合を1点とし、各回の平均値と割合を示した。結果は表1の通りとなった（紙面の関係上、下位項目は省略）。

表 1. 各回終了後の回答の平均値と割合

	第1回 N=11 (%)	第2回 N=11 (%)	第3回 N=11 (%)	第4回 N=11 (%)	第5回 N=9 (%)	平均 (%)
1 学校組織へのアプローチ	8.0 (73)	9.8 (89)	9.3 (84)	9.0 (82)	6.7 (75)	8.6 (81)
2 教育委員会へのアプローチ	6.5 (59)	8.8 (80)	8.8 (80)	8.0 (73)	7.8 (86)	8.0 (75)
3 関係機関へのアプローチ	8.3 (75)	9.5 (86)	9.6 (88)	9.3 (84)	7.0 (78)	8.7 (82)
4 子ども・保護者へのアプローチ	9.7 (88)	11.0 (100)	9.7 (88)	10.7 (97)	6.0 (67)	9.4 (88)

②各回の感想の自由記述

感想の自由記述については、回毎のキーワードと、共通するキーワード（ソーシャルワーカーとしての基礎的な課題、SSWとしての課題）を抽出した。なお、個人を特定出来ない形に加工した。

表 2. 各回の研修概要と抽出されたキーワード及び主なリアクションペーパー記述内容

第1回：7月16日／SSWの視点確認と研修が支援活動に与える効果／講師：大場／参加者：16人
<p>振り返りの重要性</p> <p>受けて来た研修を振り返りながら、また重要なキーワードと向き合えた／過去の資料を読み返すきっかけになった／日頃から足りていないと感じる事が多いが、今回の研修で改めて自分自身を客観的に振り返る事ができた／今年度の振り返りも何らかの形で実施してほしい／今の自分の目線で昨年度の研修資料を振り返りたい</p>
<p>研修の連続性</p> <p>2年度連続で開催してもらえたことが良かった／SSWの育成には相談しやすい環境、新人研修、中堅研修等の充実も必要な課題／経験が浅いSSWが増えてきた中で、全体研修の持ち方は難しい／専門的研修を受けることが前提でないと、支援活動に繋がらない</p>
<p>経験年数差を支援の差にしてはいけない</p> <p>子ども、親との関わり方のポイント、福祉サービスでは表れない当事者の大変さをしっかり受け止めた／経験年数のばらつきは支援内容に差を生じさせるのでは</p>

第2回：11月16日／ソーシャルワークの組織論／講師：川向／参加者：16人

教育現場を知りニーズを理解することが自信につながる

あえてやっかいな事に一步踏み込む大切さを知った／事業所との動きの違いがあって当然だ／効率が悪い事も積極的に実行して良い／「重要な他者」としての支援者でいられるよう努力したい／「支援」に「業務」の思想が蔓延しているとの指摘に、日ごろ感じていたモヤモヤが整理できた／支援の本質について深く考える機会になった

利用者を取り巻く環境の把握

利用者の暮らしを知ろうとすることも支援の1つだと認識出来た／利用者側の気持ちを理解しながらSWとして関わっていききたい

第3回：2月15日／スーパービジョンの理論と実際／講師：福田／参加者16人

悩んだときは初心に立ち返る

何年経験を積んだとしても、初心的な謙虚さが求められるのがソーシャルワークであると気づかされた／経験の浅いワーカーから大切な気づきをもらう／

全ての経験は身になる

現任者が語るという貴重な機会を持ててよかった／先輩がバリバリと働く姿しかみてこなかったので失敗談が聞けて嬉しかった／失敗の経験がワーカーとしての成長に繋がるのが良く分かった

SSW 同士つながることの重要性

他のメンバーと意見交換の時間がほしかった／ステップアップできた失敗体験、先輩SSWの言葉が腑に落ちた体験などを語り合える仲間づくりが大切／うまくいかなかったことも含めて同僚同士で話せる環境が必要

ゆるがない自分の軸を持つ

自分の軸について考えるきっかけになった／支援者としての「ゆるがない軸」の重要性ということが印象に残った

<p>第4回：2月15日／精神障がい者の生活について／講師：佐々木／参加者16人</p> <p>支援のすべては対象者を知ることから</p> <p>対象者を知る中で対象者の見え方が変わってくるのだと実感できた／対象者を知りどんな方法で支援ができるかを考え続けるのが大切／目の前の子どもたちの背景に目を向ける／子どもや家族の声に向き合う</p> <p>最善の結果を生むためのアプローチ</p> <p>若年層への精神疾患の予防的アプローチについても聞きたい／理不尽で残酷な結果にならないよう福祉ができることは何か／事例の話についての考察が興味深かった</p> <p>生育環境と心の発達のつながり</p> <p>子どもの生育環境が心身の発達に様々な影響を及ぼすことが明確に分かった／マルトリートメントが脳に与える影響が興味深かった</p> <p>具体事例を知り理解を深める</p> <p>事例を用いた説明が分かりやすかった／全国の動向を初めて知った／精神科病棟退院後の現場が理解できた</p>
<p>第5回：2月22日／福岡市SSW事業の展開過程／講師：奥村／参加者16人</p> <p>よりよいSSW事業のための課題の洗い出し</p> <p>自らの課題を見直す／マクロ部分の実践について考えさせられた／人数が多いなりの難しさや課題／福岡の実践を参考に浜松の課題を整理する</p>

③抽出されたキーワードの分類

リアクションペーパーから抽出されたキーワードを、山野（2011）の分類に倣い、ミクロ領域、メゾ領域、マクロ領域に分類し、更にキーワードからの課題を抽出した。

表3. キーワードの分類及び課題抽出

領域	抽出されたキーワードの分類	抽出された課題
ミクロ領域（個別事例へのアプローチ）	振り返りの重要性 研修の連続性 経験年数差を支援の差にしてはいけない 利用者を取り巻く環境の把握 悩んだときは初心に立ち返る 全ての経験は身になる SSW 同士つながることの重要性 ゆるがない自分の軸を持つ 支援のすべては対象者を知ることから 最善の結果を生むためのアプローチ 生育環境と心の発達のつながり 具体事例を知り理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者と環境の理解 ・SSW の資質向上 ・SSW どうしのつながり
メゾ領域（校内体制作りへのアプローチ）	教育現場を知りニーズを理解することが自信につながる	<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場をよく知る

マクロ領域（市子ども家庭支援体制作りへのアプローチ）	よりよいSSW事業のための課題の洗い出し	・よりよいSSW事業のために
----------------------------	----------------------	----------------

【まとめ】

各回終了後の回答の平均値と割合（表1）では、「子ども・保護者へのアセスメント」について「役に立った」と回答する者は88%であった。また、研修参加者からリアクションペーパーを通じて抽出されたキーワードはミクロ領域では「対象者と環境の理解」、「SSWの資質向上」、「SSWどうしのつながり」に集約される（表3）。これは、浜松市内の小中学校にSSWを配置する動きが始まった2008年度以降、SSWが試行錯誤・切磋琢磨し続け、積み重ねた証であろう。人員を徐々に増やししながら、かつ入れ替えを繰り返しながら、研修の機会の提供により、SSWに求められているものは何かを議論できる場に辿り着いたことを意味するのではないかと。参加者の記述を概観すると、頼りなさ、不安、SSWとしての自信のなさを吐露する内容が目につく印象があるが、一方で、それらを克服すべき課題を理解し、今回の研修を「振り返るきっかけになった」と前向きに捉えている（表2）。不安と迷いは理論を実践する上で避けられないものであり、揺れがあるからこそ自分の「軸」を確認し本来あるべき支援の姿を見極めることにつながる。現にリアペ中では、先輩方の失敗談に勇気づけられる者、迷ってもいい、効率が悪くてもいいという、全ての経験は身になっていくことを理解または実感する者が多く見られた（表2）。

これらから、SSWの基盤であるミクロ領域に対して本研修の効果はあったと考えられる。

一方、本来SSWの後ろ盾である教育委員会とのつながりを強めることについて、本研修が「役に立った」と答えた者は4分野の中で最も低く75%であった（表1）。また、抽出された課題もミクロ領域と比べ、メゾ領域、マクロ領域は少ない（表3）。これらから、校内体制作りや教育委員会とのスムーズな連携促進には課題が残ることを表していると考えられる。

今回の研修では十分扱えなかったが、今後のSSW活動の発展を考えると、メゾレベルそして、マクロレベルの研究や研修が必要になると思われる。

なお、2022年3月に3年間の取り組みを、浜松市教育委員会SSW担当者に報告し、上記課題とSSWの可能性及び本学との更なる連携協働について意見交換を行った。

【結論】

SSWの基盤であるミクロ領域に対して、本研修の効果はあった。今後、メゾレベル、マクロレベルの研究や研修が必要になり、本学としても継続的な連携協働が求められる。

リハビリテーション学部における産学連携推進の基盤整備

代表者：新宮尚人（リハビリテーション学部）

分担者：飯田妙子（産学連携推進リーダー）、柴本 勇（リハビリテーション科学研究科長）、
矢倉千昭（理学療法学科）、泉 良太（作業療法学科）、佐藤豊展（言語聴覚学科）

連携機関：尾上智彦、長嶋桃子、山田一仁、酒井英彰、波多江早織（杏林堂薬局）

協力者：高山真希（理学療法学科）

【産学連携推進プロジェクトに至る経緯】

リハビリテーション学部の産学連携推進プロジェクトは、学部の事業計画の1つとして2019年度より開始した。初年度は学部教員はじめ、他大学における企業との連携状況について調査を行った。その結果、本学部で企業と連携している教員は約3割であり、8割の教員については部分的にあるいは十分連携可能であるという回答であった。しかし、現在、本学には産学連携についての担当部署がないため、手続きなどで不便なことが多いという意見があった。以上より、本学の体制整備に関する課題を以下のとおり明確化した。

課題 1

他大学では企業と教員の連携であるが、本学では学部・学科の教育特徴・資源を活かし、在学生が主体的に学ぶことを目的に“教育”中心の産学連携を推進する。

課題 2

現在は教員の業務（教育・研究活動）として行うことができない体制であるため、学生教育や研究の一環として実施できるよう、関係部署との調整・環境整備を行う。

上記の課題を解決するため、2020年度は複数の企業と情報交換を行い、学生を交えた取り組みの実現可能性について検証を行った。

連携機関の1つである杏林堂薬局は、静岡県内に多くの店舗を有し、さまざまな方法で地域住民の健康と暮らしを支える活動（健康教室、イベント実施等）を管理栄養士が中心となり行っている。リハ学部産学連携推進の目的と杏林堂薬局の「専門的な知識を組み込んだ地域支援を展開したい」というニーズが合致し、2020年度より下記に記す具体的な活動が開始された。

①杏林堂薬局との動画作成での連携

コロナ禍のため、対面でのイベント参加などが制限されたが、オンラインを活用し、学生中心に杏林堂薬局と動画を作成することができた。全ての動画はYouTubeで閲覧可能である。

②産学連携プロジェクトの実施に伴う環境整備

実施にあたり、実施方法については地域連携推進センター・大学総務部と書面等の整備を行った。企業との連絡調整については、教員自身がコーディネートを行った。

実施後の学内外への広報活動においては入試・広報センターと情報共有し、本プロジェクトの周知を図った。

【2021 年度に取り組むべき目標】

2020 年度の活動を踏まえ、2021 年度の産学連携推進の到達目標は、「連携企業との関係を強化し、連携内容のモデル化を検討すること」、「連携に必要な学内整備を実施すること」とした。

【実施報告】

①企業・学生・教員による連携事業の実施

連携企業との関係を強化し、連携内容のモデル化を検討するため、2020 年度の活動の継続および新しい連携事業の模索を行った結果、下記の 3 つの企画を実施することができた。

・「心と身体の健康」をテーマにした動画作成の実施

2020 年度に引き続き、作業療法学科学生と杏林堂薬局のコラボ企画として実施した。「自宅でできる、心と身体への健康支援」をテーマに、アロマキャンドル作りと作業療法の専門知識を盛り込んだ動画を作成した。完成した動画については、杏林堂薬局 YouTube で公開中である。

・オンライン運動教室の実施

理学療法学科学生と杏林堂薬局のコラボ企画として、2020 年度に実施した運動に関する動画作成をきっかけに杏林堂薬局より新たにご提案いただき、杏林堂薬局主催のオンライン運動教室の講師を担当した。内容は日常生活でも行える運動プログラムと、理学療法の専門知識を組み込んだ一次予防に関するミニ講義である。

・店舗イベントの実施

本学部より 3 学科の特色を盛り込んだイベント企画の提案をしたところ、杏林堂薬局と湖西市などで実施予定の BasS 事業実証実験（注）への参加をご提案いただいた。

イベントは「測定」を中心とした体験型で行い、測定結果が標準値から低下している項目について家で実施できる予防法を指導し、日常生活に生かしていただけるよう資料を配布した。イベントには湖西市長・副市長が来訪され、内容やリハビリテーション専門職の専門性、一次予防の必要性についての情報共有も行った。

3 学科の実施を予定していたが、コロナの感染状況を考慮し、言語聴覚学科のみの実施となった。

②連携に必要な学内整備

連携に必要な学内整備については、下記の 2 点が整理された。

- ・企業との連携活動をスムーズに進行し、また本学部の特色のある活動を学内外に広く周知をするために必要な整備については、その都度関連部署（地域連携推進センター、入試・広報センター、大学総務部）と情報共有を行った。
- ・本学部教員が現在実施している産学連携について、大学ホームページにて公表し、本学部の seeds の企業への周知を図る必要がある。学部教員の情報については収集済みであるが、掲載場所については引き続き検討を行っている。

【結果】

① 「連携企業との関係強化および連携内容のモデル化」について

2020年度の活動の継続（動画作成）に留まらず、新しい企画への発展（店舗・オンラインでの企画の実施）が行えたことから、連携企業との関係性は強化されていると考えている。

また、理学療法・作業療法学科においては、2020年度の活動をモデルとして今年度の企画を実施した。また、学生主体の取り組みであるため、活動を経験した学生から新しく参加する学生への情報伝達も一部では行われており、「連携実践モデル」が形成されつつある。

② 「連携に必要な学内整備」について

連携企業との活動の成果については、大学ホームページや杏林堂薬局のSNS、リハビリテーション学部各学科SNS（ブログ、Instagram）にて発信を行った。学内外から反響をいただいたが、さらに広報範囲を広げるための工夫が必要であると思われる。

学内教員の産学連携に関する情報については未だ掲載に至っていないため、今後掲載場所等について学内で関係部署との検討を進めていく。

【今後の課題】

本事業は3年が経過し、本学部による地域企業との連携が形作られてきている。また、地域の課題解決のためのアクティブラーニングやリハビリテーション専門職の広報の一助としての成果も少しずつあげられている。今後は、この連携を強化・維持できる体制づくりに加え、企業との連携事業の広報を通して、リハビリテーション専門職の周知や新たな連携の可能性につなげていけるよう検討を図っていきたいと考える。

注) BasS 事業実証実験について

湖西市が運行するコミュニティバスと市内企業が運行するシャトルバスが連携することで、両者の効率性及び利便性の向上、ひいては市内経済の活性化に資する施策の実施可能性等について調査・検討を行った実証実験である。

BasSの運行ルートに杏林堂薬局店舗があり、買い物や調剤等の所用での立ち寄りだけでなく、健康測定や健康教室の開催など、活動や外出のきっかけになるようなイベント企画を予定されていたところに参加させていただいた。

参照：<https://www.tut.ac.jp/docs/PR201127.pdf>

2021年度地域連携推進センター運営会議

委員一覧

センター長	吉本 好延	リハビリテーション学部理学療法学科	教授
副センター長	大場 義貴	社会福祉学部社会福祉学科	准教授
委員	酒井 昌子	看護学部	教授
委員	氏原 恵子	看護学部	助教
委員	井川 淳史	社会福祉学部社会福祉学科	助教
委員	飯田 妙子	リハビリテーション学部作業療法学科	助教
委員	中村 哲也	リハビリテーション学部言語聴覚学科	助教

2022年度地域連携推進センター運営会議

委員一覧

センター長	吉本 好延	リハビリテーション学部理学療法学科	教授
副センター長	大場 義貴	社会福祉学部社会福祉学科	教授
委員	渡邊 輝美	看護学部	教授(2022年9月まで)
委員	氏原 恵子	看護学部	助教
委員	篠崎 良勝	社会福祉学部社会福祉学科	准教授
委員	小坂 美鶴	リハビリテーション学部言語聴覚学科	教授
委員	飯田 妙子	リハビリテーション学部作業療法学科	助教

地域連携推進センター年報 第13号(2021)

2022年12月1日発行

編集 聖隷クリストファー大学 地域連携推進センター

発行 聖隷クリストファー大学

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453

TEL 053-439-1400 FAX 053-439-1406

印刷 日興美術株式会社

地域と歩む

聖隷クリストファー大学
地域連携推進センター
